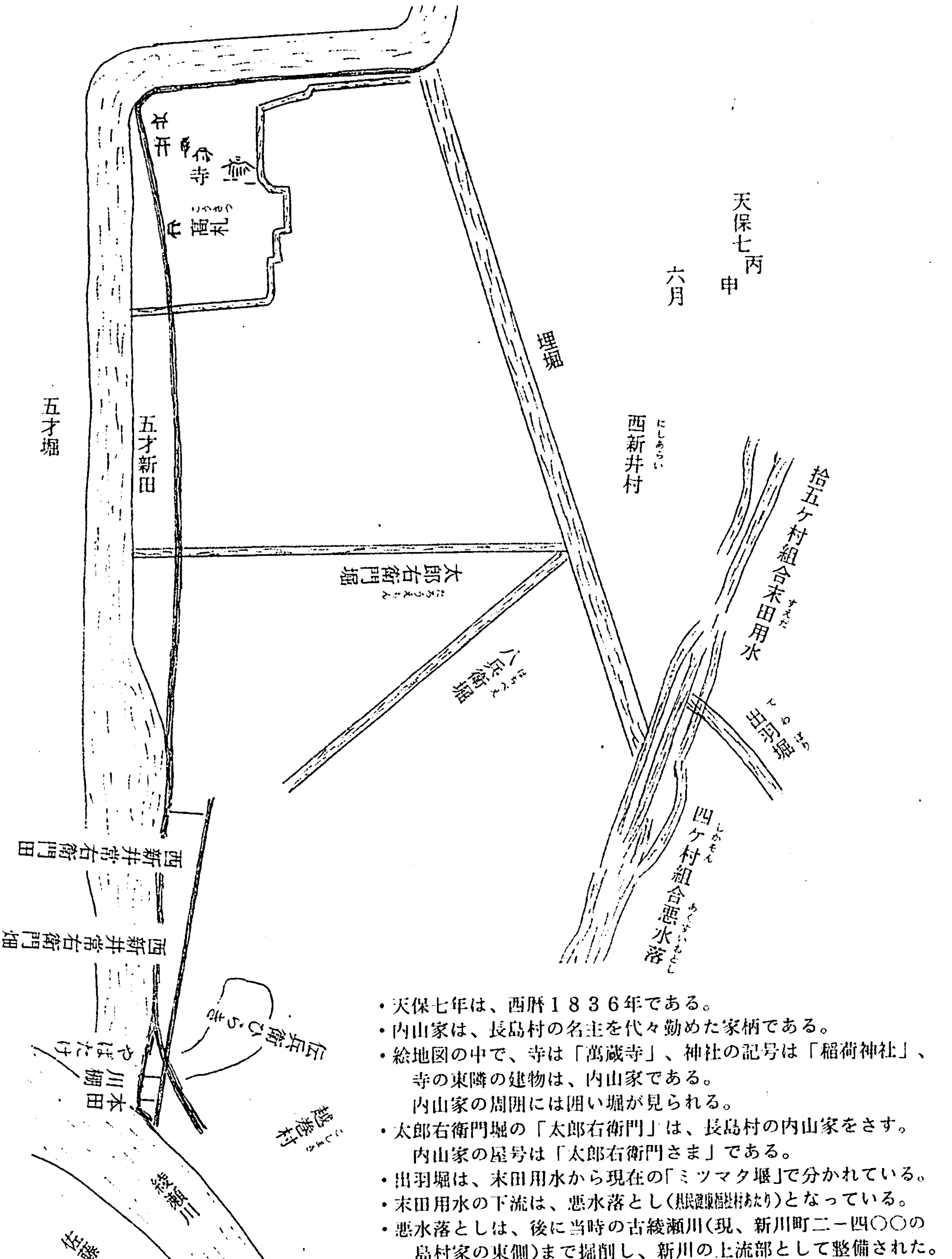
「天保七年の長島村絵地図」

－－－長島村内山家文書より－－－

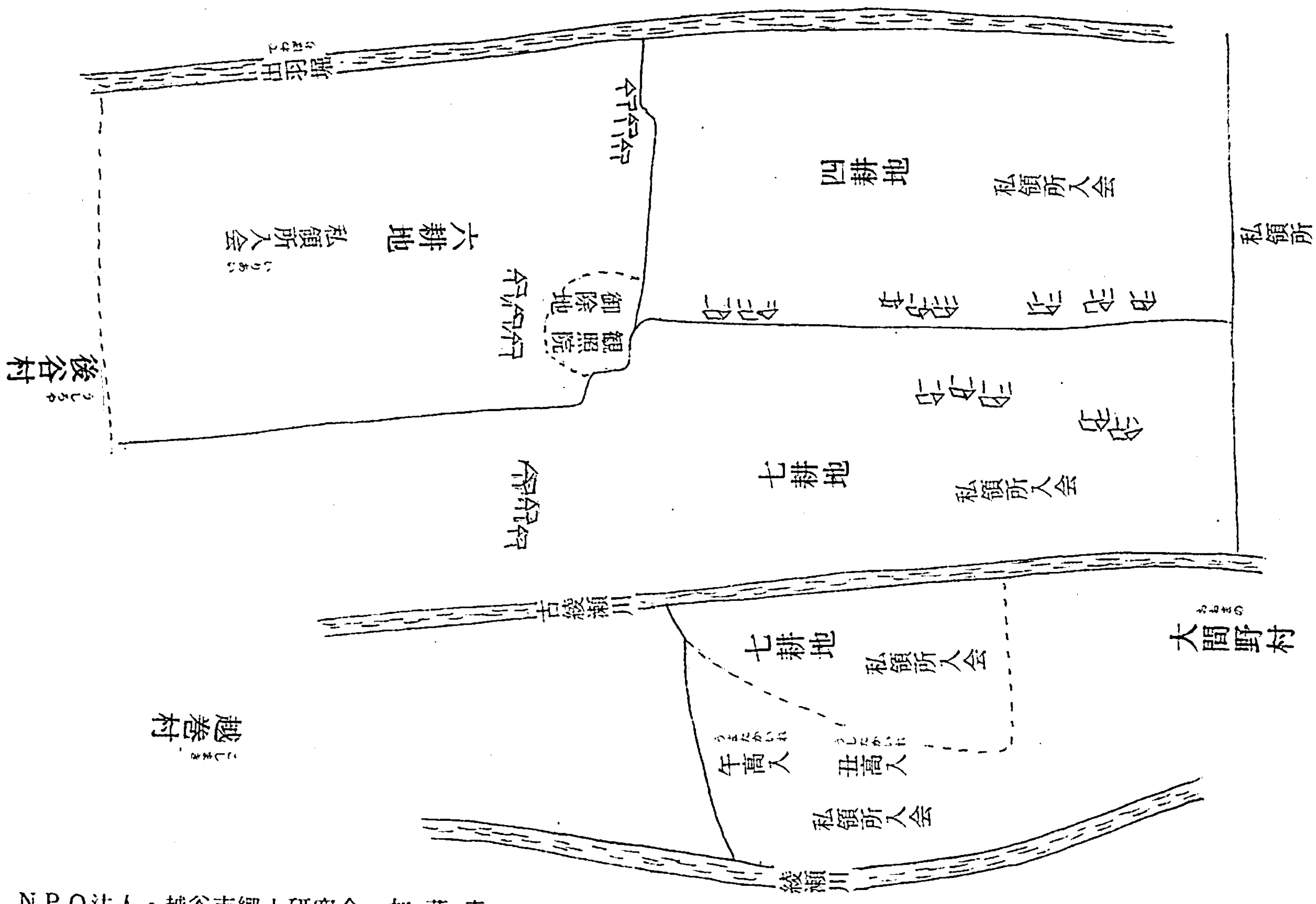


- 天保七年は、西暦１８３６年である。
- 内山家は、長島村の名主を代々勤めた家柄である。
- 絵地図の中で、寺は「萬蔵寺」、神社の記号は「稲荷神社」、
  寺の東隣の建物は、内山家である。
  内山家の周囲には囲い堀が見られる。
- 太郎右衛門堀の「太郎右衛門」は、長島村の内山家をさす。
  内山家の屋号は「太郎右衛門さま」である。
- 出羽堀は、末田用水から現在の「ミツマタ堰」で分かれている。
- 末田用水の下流は、悪水落とし(県民健康福祉村あたり)となっている。
- 悪水落としは、後に当時の古綾瀬川(現、新川町二－四〇〇の
  島村家の東側)まで掘削し、新川の上流部として整備された。
  内山家にあるもう一つの年代不詳の絵地図には悪水落とし
  の箇所が、「新川」と記載されているからである。

ＮＰＯ法人・越谷市郷土研究会
加藤幸一

「慶応三年の七左衛門村絵地図」

――― 七左衛門村井出家文書より ―――



・慶応三年は、西暦一八六七年である。明治維新の前年である。

・出羽堀は、末田用水の現在の県民健康福祉村の北側から西流してきたものである。

・古綾瀬川は、現在の新川筋で、新川は明治になってからできたものである。

・綾瀬川は新綾瀬川ともいい、現在の綾瀬川筋である。

　越谷市と草加市の市境に流れている七左衛門川は、かつての綾瀬川筋であるという。

・絵地図の中央には観照院がある。

　上（北東）方向の道は、現在の出羽小学校に通じる。

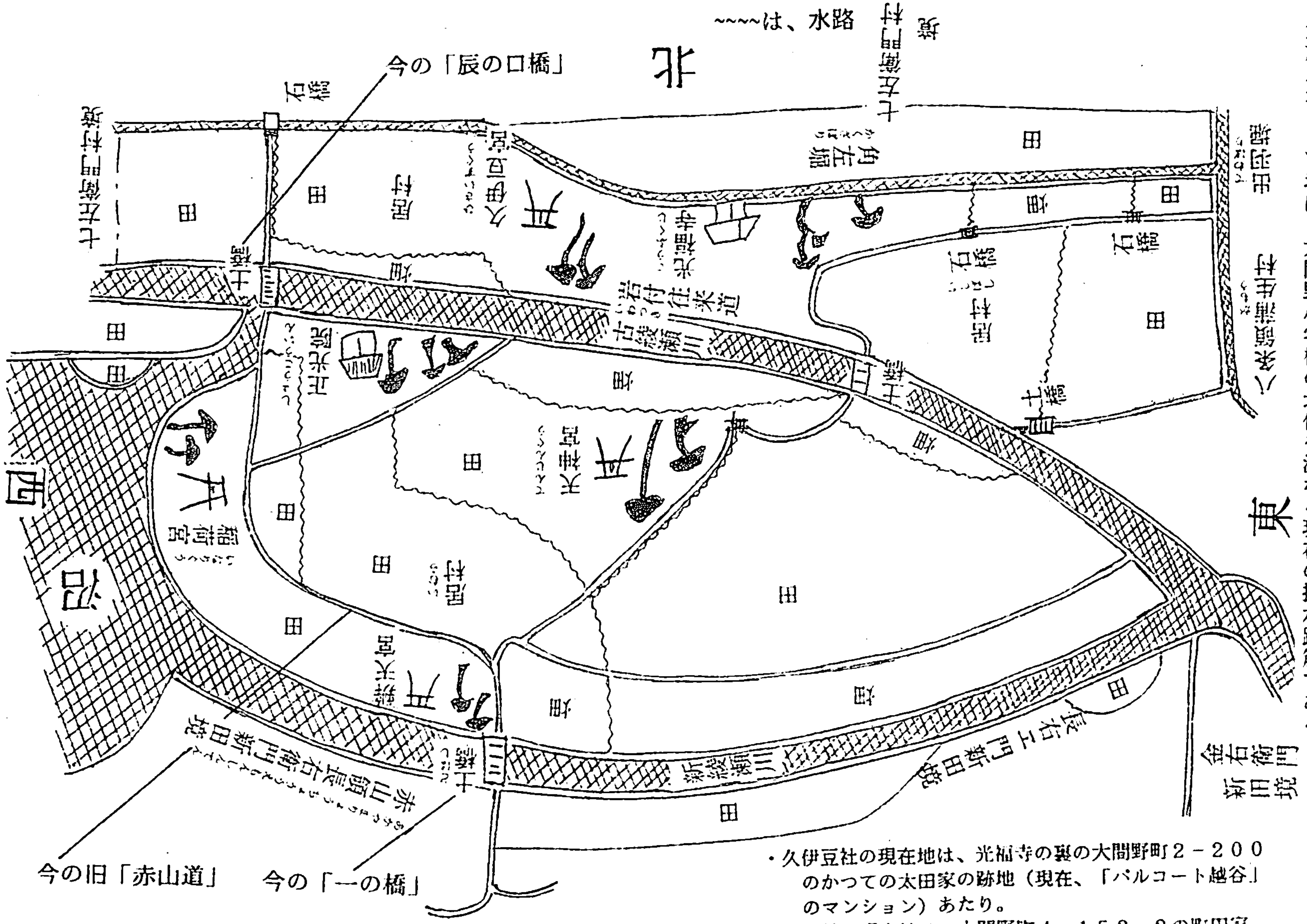
向かって右（南東）方向の道は、赤山道にぶつかる道と思われ、そこは赤山道と現在の国道四号バイパスの交差点あたりであろう。

向かって左（北西）方向の道は、新川町一―三六六の高橋清氏によると、先の山王社（七左町八丁目集会所）から右折し、突き当たって左折し、越巻村の薬師堂の南側と西側を回って半周して新川町二―七八の島村家に突き当たり、そこで左折して江戸時代に名主を勤めた新川二―一一八の島村家に向かい、その角地で右折して中新田の稲荷神社のわきを進む古道をさしていると推定できる。

NPO法人・越谷市郷土研究会　加藤幸一

「天保十一年の大間野村絵地図」

－－－大間野村中村家文書より－－－



・天保十一年は、西暦一八四〇年である。

・現在、大間野に流れている新川筋は、当時「古綾瀬川」と呼ばれていた。
古綾瀬川は、五才川が綾瀬川に注ぐあたりから、新川町二－四三三の斉藤家北側、二－四〇〇の島村家北側を通って、現在の新川筋を流れていた。（高橋清氏の談）

・この新川左岸（北側）に沿って古道である岩槻道があった。
岩槻道は、古綾瀬川（現、新川）に沿って北西方向に直進し、新綾瀬川に突き当たる。次に綾瀬川に流入している五才川の左岸に沿って北に進み、長島村の名主内山家のそばの大堰を通って五才川橋交差点に向かった。

・現在、綾瀬川と呼ばれている川は、当時「新綾瀬川」と呼ばれた。

・新綾瀬川（現、綾瀬川）の上流には広大な沼が広がっていた。この大沼は、現在の新一ノ橋周辺から武蔵野中学校にかけてで、七左衛門村の大沼明神まで迫っていた。

・角左（かくざ）堀は、大間野小学校の北側を流れる現在の排水路筋である。

・久伊豆社の現在地は、光福寺の裏の大間野町２－２００のかつての太田家の跡地（現在、「パルコート越谷」のマンション）あたり。

・稲荷社の現在地は、大間野町４－１５２－２の町田家。

・弁天社の現在地は、大間野町５－２３５の金子家。

・以上の三社は、慶応四年（１８６８）に天神宮の地に合祀されて「三社神社」として今日に至っている。

ＮＰＯ法人・越谷市郷土研究会　加藤幸一